

独自の技術で、 コンパクトカーの常識を超えていく。

暮らしをもっと楽しく豊かに広げていけるコンパクトカー。

その実現のためには、これまでの常識を一新させる必要があると考えました。

運転しやすいボディサイズや合理的な実用性だけではなく、

コンパクトカーの枠を超えた、可能性や喜びに満ちたクルマでなければなりません。

目指したのは、コンパクトカーの常識を超える価値の創造です。

Hondaの「M・M思想」*1に基づきフィットで構築したパッケージングテクノロジー「センタータンクレイアウト」を核に、ハイブリッド車にはHonda独自の軽量コンパクトなシステム「エンジン+IMA（インテグレートッド・モーター・アシスト）」を採用することで、まずは床面が低く広々とした空間を確保。そのうえで、カーライフが自由に広がる使いやすさ、気兼ねなくドライブできる燃費性能、さらには自信と誇りを持てる質感といった、気持ちや行動範囲に大きなゆとりを生む機能や性能に徹底してこだわりました。

コンパクトクラスの想像を超える広さ・使い勝手

ショッピングやレジャー、さらにはもっと何かできそうな、余裕で積める荷室を確保し、さまざまなシートアレンジや収納スペースの工夫によって、圧倒的な使い勝手を実現。そのうえで、こうした広さと機能性を予感させる新しいフォルムで包み込みました。

スモールクラスの経済性

「IMA」を採用することで、空間を犠牲にすることなく軽快な走りとともにJC08モード走行燃料消費率25.0km/ℓ*2／10・15モード走行燃料消費率30.0km/ℓ*2の低燃費を実現したハイブリッド車をラインアップ。ガソリンエンジン車（FF車）は1.5ℓ i-VTECやCVTの採用により、クラス*3トップレベルのJC08モード走行燃料消費率18.6km/ℓ*2／10・15モード走行燃料消費率20.0km/ℓ*2を達成。ともにフィット同等の燃費性能を実現しています。

ミドルクラスの上質・快適

大切な人との移動をいっそう快適にするために、ミドルセダンのアコードクラスに匹敵する静粛性や安定した乗り心地を実現。さらに、スタイリングには堂々とした車格感を、インテリアには落ち着きのある上質な風合いを持たせるなど、見て・触れて・走って感じる質感にこだわりました。

ゆったり乗れて、しかも荷室を多彩に使いこなせる。

ハイブリッドカーであっても、思いのままに荷物を積める。

優れた経済性を発揮しながら、快適さや上質さも得られる。

そんな、コンパクトカーでありながら、コンパクトクラスを超える価値をスマートにバランスさせた、“上手に贅沢”するクルマ（フィット シャトル）。これからの新しい基準と呼べる、Hondaの新たな回答です。

コンパクトクラスの想像を超える広さ・使い勝手

余裕で積める広さに多彩な工夫を施した荷室の使い勝手。

コンパクトカーの常識を超える価値の創造

センタータンクレイアウト
軽量コンパクトな「IMA」
（ハイブリッド車）

スモールクラスの経済性

ハイブリッド車も
ガソリンエンジン車も
フィット同等の低燃費を実現。

ミドルクラスの上質・快適

アコードクラスに匹敵する
静粛性や乗り心地と
クラスを超えた質感。



上手に贅沢するクルマ。

FIT **SHUTTLE**

*1 「M・M思想」とは、「人のためのスペースは最大に、メカニズムは最小に（マン・マキシマム／メカ・ミニマム）」という、「人が中心」の発想で取り組むクルマづくりの基本思想。
*2 国土交通省審査値 詳細は、各技術説明ページおよびP24の「主要諸元」をご覧ください。
*3 1.5ℓクラスのステーションワゴンとして（2011年6月現在 Honda調べ）

ネーミングの
由来

“人の喜びにフィットする”クルマづくりの思想をフィットから踏襲しながら、「人も荷物も、日常とは少し異なる夢の場所へと快適に、安全に、先進の技術で運んでくれる」というイメージを、宇宙を旅するスペースシャトルになぞらえてネーミングしました。